

いいひと、いいしな、いいくうき——環境農品



南アルプス市、飯野さんちのさくらんぼ



先日、南アルプス市のさくらんぼ農家の飯野さんを訪ねました。

ちょうど初出荷の箱詰め作業中で、丹念に育て上げたさくらんぼをひとつひとつ丁寧に詰めていく様子に飯野さんのさくらんぼづくりにかける情熱をかいま見る思いでした。

きれいにパックされたさくらんぼは東京、大阪、京都の有名百貨店等で販売されます。

環境農品は『いいひと いいしな いいくうき』をテーマに南アルプス市が選定した農作物です。

今年は高砂。毎年4月頃からお目見えする品種で程よい酸味と甘さが特徴。国産のさくらんぼでは早い時期に味わうことのできる品種です。

環境農品のテーマ 1 ● いいひと

今年の高砂は飯野さんが育てたさくらんぼです。『うちのさくらんぼを美味しいと言って食べてもらうためにハウスの栽培環境をしっかり管理し、さくらんぼの出荷タイミングを見極めていきます。』と笑顔で話してくれました。

環境農品のテーマ 2 ● いいしな

飯野さんは『うちのさくらんぼは同じ時期の佐藤錦より美味しいよ。』と自信を持って話します。

環境農品のテーマ 3 ● いいくうき

飯野さんのさくらんぼを栽培するハウスは加温するのに化石燃料の重油は使いません。ペレットという木材を圧縮加工した燃料を使います。この燃料を使うと重油よりも燃焼した時のCO₂排出量が圧倒的に少ないという特徴があります。さらに南アルプス市が建設した水力発電所の電力を利用することによって削減されるCO₂排出量から5kgをさくらんぼ1箱に付けさせていただきます。

南アルプス市の環境農品はお買い求めいただいた方が1日に生活の中で排出されるCO₂約5.6kgのほぼ全量を相殺できることとなります。

お客様が南アルプス市の環境農品をお買い求めいただくことを通してCO₂排出量の削減、ひいては地球温暖化の防止に貢献して頂くことになるのです。

皆様もぜひ一度、南アルプス市の環境農品「飯野さんが育てたさくらんぼ」を、ご賞味ください。



桐箱入りさくらんぼとパック入りさくらんぼ（いづれもカーボンオフセット付き）は都内では日本橋高島屋と池袋東武百貨店にて販売されます。

環境省基準によるカーボン・オフセット認証ラベル



4CJ-1100086

www.4cj.org

認証取得者 南アルプス市



今年は丸形容器を採用、きれいにパッケージするにはコツがあるそうです



奥様と息のあった作業の様子

“排出権付き”さくらんぼ収穫の様子がNHKで放送されました。

“排出権付き”さくらんぼ収穫



“排出権付き”さくらんぼ収穫

4月17日8時14分(NHK NEWS WEBより)

二酸化炭素の排出量が比較的少ないバイオ燃料を使って栽培し、二酸化炭素の排出権が付いたさくらんぼの収穫が、山梨県南アルプス市で始まりました。

この取り組みは、山梨県南アルプス市が、環境省の補助金を受けて平成22年度から行っています。16日は、農家の飯野宣久さんのハウスで、さくらんぼが初めて収穫されました。

このさくらんぼは、栽培するハウスを温めるのに木のチップで出来たバイオ燃料を使い、二酸化炭素の排出量が、これまでの重油と比べて少ないのが特徴です。さくらんぼ1箱につき消費者1人が1日に排出するとされる5キロ分の二酸化炭素の排出権が付けられ、消費者は商品を購入することで、二酸化炭素の排出量の削減に貢献できる仕組みです。

農家の飯野さんは「自然にやさしいさくらんぼとして、消費者に受け入れてもらえるとうれしいです」と話していました。

南アルプス市地球温暖化対策室の樋泉孝司さんは「環境に配慮した農産物を作ることで、地域農業の活性化にもつなげていきたい」と話していました。

東京日本橋高島屋に初入荷された南アルプス市のさくらんぼの店頭取材がありました。

“排出権付き”さくらんぼが日本橋高島屋の店頭初入荷されたのを機にNHK山梨放送局の取材がありました。売場担当者の方も協力的でカルネコで準備した店頭ツール(タイトルボード、カーボンオフセットのリーフレット、飯野さんのレポート)も設置され順調に取材が行なわれました。

果物売場の店長さんからも「頑張って販売しますよ」と力強い言葉を頂きました。

カルネコスタッフもきれいに色づいたパック入りさくらんぼを思わず購入させていただきました。翌日にはパック詰めされた商品は完売。環境省のカーボンオフセットの認証ラベルが添付された飯野さんが育てたさくらんぼ。旬の美味しさをぜひ、ご堪能ください。内容は後日編集され放送予定だそうです。



ブランドカラーがさくらんぼの店頭イメージにも一役買っています。



樋泉さんも南アルプス市の「カーボンオフセット農産物の取り組み」について熱心に説明



カーボンオフセットの取り組み事例として南アルプス市のさくらんぼの取材がありました。



南アルプス市地球温暖化対策室の樋泉さん（左）同保坂室長（右） さくらんぼ農家の飯野さん（中央）

「自然にやさしいさくらんぼとして、消費者に受け入れてもらえるとうれしいです」と農家の飯野さん。

「環境に配慮した農産物を作ることで、地域農業の活性化にもつなげていきたい」と話す南アルプス市地球温暖化対策室のお二人。

山梨県南アルプス市が、環境省の補助金を受けて平成22年度から行っている二酸化炭素の排出量の削減に貢献できる取り組みをカルネコのノウハウを活かしながら、そして様々な協力関係を結びながら積極的に支援していきたいと思えます。

環境省関連の日経BPコンサルティングによる取材

4月24日、日経PBコンサルティング企画出版本部の高木さんはじめ取材スタッフ3名による南アルプス市のカーボンオフセット付き農産物の取材が行なわれました。

南アルプス市地球温暖化対策室からは室長の保坂さん、樋泉さん、それにさくらんぼ農家の飯野さんが取材に応じ、さくらんぼ作りにかかる思いや温度調整などの難しさ、これまでの市のカーボンオフセットの取り組みと今後の取り組みについてなど。同席した三菱UFJリースの西さんとカルネコの鈴木、菅谷についてはいっしょに組んで仕事を進めるようになった経緯等の質問がありました。

飯野さんのさくらんぼ温室農園で撮影取材後、さくらんぼの箱積み作業を見学。車で20分ぐらいの小水力発電所に移動して排出権を取得した経緯の説明等を受けました。

今後の取り組みについては来年もより良い形で継続したい（保坂室長）。今年の取り組み後のヒヤリングを精査して次に繋げたい（樋泉さん）など南アルプス市が環境問題と農業振興を総合的に捉えたビジネスモデルの構築に、より積極的に関わっていく姿勢が見て取れたように思います。



ペレット専用ボイラー



果樹園から出る剪定枝等で作られた木質ペレット（木質バイオマス）を専用ボイラーで燃焼させ、ハウスを加熱してさくらんぼを栽培。来年もさらに活躍しそうです。



金山沢川水力発電所



水路で水を引きチェコ製のタービンを回して発電（最大出力100kw）、電力は市の公共施設に供給され余剰電力は電力会社に売電されるそうです。